

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆鉱工業生産指数、10月1.4%上昇 自動車工業がけん引

・中国企業が業績悪化に苦しんでいる。上場約5300社の2025年1～9月期決算は、最終赤字となった企業の割合が24%と前年同期から1ポイント上昇し、データがそろった02年以降で最悪だった。不動産と太陽光関連はおよそ半数が赤字。赤字の背景にある内需の落ち込みや過剰生産は、世界景気を下押しするリスク要因にもなる。

◆価格転嫁率1.1ポイント上昇の53.5% 島根がトップ、最下位は岩手

・中小企業庁は中小企業の価格交渉や価格転嫁に関する調査結果を公表。9月時点の価格転嫁率は53.5%と、3月の前回調査から1.1ポイント上昇。労務費やエネルギーコストを中心に転嫁が進んだ。初公表した都道府県別のトップは島根県の58.6%、最下位は岩手県の45.5%。原材料費などのコスト増加分のうち、価格に転嫁できた割合を集計。

◆10月の有効求人倍率は1.18倍、2カ月ぶりの低下

・厚生労働省が発表した10月の有効求人倍率は1.18倍と、前月から0.02ポイント下がった。2カ月ぶりの低下で、1.20倍を下回るのは2022年1月以来。省人化や物価高騰に伴い求人を控える動きがみられた。総務省が同日発表した10月の完全失業率(季節調整値)は2.6%。「最低賃金の引き上げにより求人を見直す動きも一部であった」という。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆10月着工、7カ月ぶり増 持家は減少続く

・国土交通省が公表した10月の新設住宅着工戸数は7万1871戸(前年同月比3.2%増)で、7カ月ぶりに増加へと転じた。単月の増加ではあるものの、4月から続いていた法改正後の反動減はほぼ解消したと見られる。季節調整済み年率換算値は80万3000戸(前月比2.4%増)で、4月以降初の80万戸台となった。

◆26年度「超省エネ住宅」補助、1戸110万円に下げ 対象住宅数は倍増

・国土交通省と環境省は2026年度、断熱性能に優れ、太陽光パネルなどを備える超省エネ住宅向けに1戸あたり110万円を支援。25年度の160万円からは引き下げとなる。予算額は1.5倍に増やし、年度を通じて広く支援できるようにする。11月28日以降に工事に着手した住宅が対象で、26年度以降の準備が整った時期に受け付けを始める。

◆建機出荷額、10月は8%減 北米向け不調で3カ月ぶりマイナス

・日本建設機械工業会は10月の建設機械出荷額が前年同月比7.7%減の2778億円だったと発表した。マイナスに転じるのは3カ月ぶり。トランプ関税の影響で北米向けが減ったことや、石炭価格の下落によってインドネシアで鉱山機械の販売が落ち込んだことが響いた。国内向けは13.2%減の856億円と4カ月連続で減少した。

《 注目商品 》

■グローエ、キッチン水栓「ミンタ」

・多様なスパウト形状と機能性で人気のキッチン水栓「ミンタ」シリーズに、水はね低減機能を搭載した新モデル7種類をラインアップ。日本国内のユーザーの声に応え、ドイツオリジナル品の散水板に改良を加えることで、水はねの少ない「ソフトスプレー仕様」を採用。



■岩崎電気、レディオックプロワークスシリーズに「ハンディワークライト40W」

・工事現場用照明として展開しているレディオックプロワークスシリーズに、新たに「ハンディワークライト40W」を追加し販売を開始。AC100V用のプラグ付きで配線工事不要、プラグ接続又はバッテリー点灯が選べるハイブリッドタイプで、電動工具用の18Vバッテリーが使える。



■フジ医療器、「サイバーリラックス マッサージチェア M25 AS-R710」

・全身を効率よくパワフルにほぐす3つのもみメカと、骨盤まわりから太もも部までしっかりアプローチする大型エアバッグを新搭載した「サイバーリラックス マッサージチェア M25 AS-R710」を発売。仙骨の周辺を集中的にマッサージする「坐骨ほぐしメカ」を新搭載。

